



さかい通信 2021春号

新型コロナウイルスの感染によりお亡くなりになられた全ての皆さまに哀悼の意を捧げるとともに、闘病中の皆さまの一日も早い回復を御祈り申し上げます。

また今日まで、医療の最前線で戦ってくださっております医療従事者の皆さまをはじめ、介護士や保育士、スーパーやドラッグストア、公共交通機関、清掃業、配送業など、社会インフラ維持のために従事する全てのエッセンシャルワーカーの皆さまへ、改めて感謝を申し上げます。

◆千葉市の新たな取り組み

新たな防災減災対策～10年前の質問(提案)が実現

東日本大震災から10年。当時、震災直後の議会で様々な施策の提案を行いました。既に市内270カ所に展開されている「避難所運営委員会」の設置は、実際に被災地で伺った「最も苦労したのは避難所の運営」との話を聞き、提案したものであります。そして今議会で成立した新年度予算には、同じく当時提案をした以下の2点が計上されました。



1月に中央区内に開局した「SKYWAVE FM」を訪問

●FM局を活用した情報発信

千葉市は、先ごろ市内に開局したコミュニティFM(SKYWAVE FM)と、災害時の緊急情報をラジオ番組内で放送して頂くための協定を締結。今後は、緊急情報を自動的に割り込ませるシステムが整備される予定です。なお、高齢者等の情報弱者のため、ラジオを聞いていなくても自動で起動し、コミュニティFMに切り替わる「自動起動式ラジオ」の購入助成事業等も提案中です。

●災害時要援護者支援計画(個別計画)の策定

災害時に支援を要する、個々の高齢者や障がい者の具体的な避難支援対策を策定するものです。ケアマネジャーと地域コーディネーターが地域と連携し、計画を作成するモデル事業が行われます。

「あなたが使える制度お知らせサービス」が運用開始

各種手当の受給や健康診査などについて、各制度の受給対象者となる可能性のある方にLINEのメッセージで個別にお知らせすることで、受給漏れの防止を図るサービスです。対象制度は、健康診査や子育て支援関連手続きを中心に23制度です。

詳しくはHPをご覧ください。 [千葉市 あなたが使える制度お知らせサービス](#)

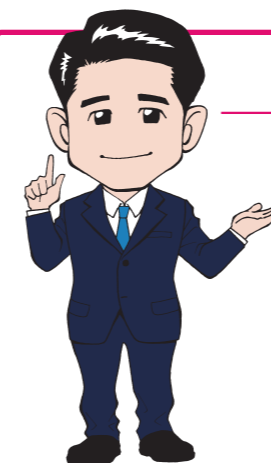
必要な人に必要な支援を!



◆成人式の代替イベント開催を!

今年の成人を祝う会は、残念ながら式典の会場開催が中止となりました。人生の大きな節目でもある新成人の門出を、懐かしい友人や恩師とともに集う形で迎えることができなかったことは、何とも不憫でなりません。また、晴れの式典に送り出すことができなかったご家族の落胆の声も、多数頂戴してまいりました。

個人的にも代替イベントの企画を求めてきましたが、先の議会質問(3月1日)では、「一堂に集まる場を設けたい」「(感染状況やワクチン接種の状況などを考慮しながら、実施方針を決定し)6月頃にご案内ができるように検討を進める」との答弁を引き出しました。開催の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。



声をカタチに

西雷踏切の歩道整備

長年に渡り予算要望を行ってきた浜野町「西雷踏切」の歩道整備。平成27年に予算計上されてから約6年。去る2月23日に工事が完了し、開通致しました。



南町宮崎町線の整備と大森台駅のバリアフリー化

南町宮崎町線の整備については、平成6年の事業着手から27年、ようやくゴールが見えて参りました。来年度末の開通を目指して整備が進められており、JR蘇我駅や京成大森台駅へのアクセス向上、当該地区の安全性の向上が図られます。

さて、同事業完了とともに期待されるのが京成大森台駅及び同駅周辺の整備であります。まず駅前広場については「令和4年度に都市計画事業認可を取得する予定」との答弁。また、3年前に陳情も採択されたエレベーターの設置など、駅内外のバリアフリー化について国・鉄道事業者への積極的な働きかけを求めたところ、「より一層、京成電鉄に対応を要請していく」との答弁がありました。

早期の実現に向け、引き続き取り組んでまいります。



新型コロナワクチン接種についてのお知らせ



接種予約、接種場所、接種券発行に関すること (受付時間 8:30～18:00/土日・祝日を含む)
千葉市コロナワクチン接種コールセンター 0120-57-8970

接種後の副反応、医学的知見が必要となる専門的な相談に関すること (受付時間 24時間/土日・祝日を含む)
千葉県新型コロナワクチン副反応等専門相談窓口 03-6412-9326

事業者向け臨時相談窓口

(中小・個人事業主向け 国・県・市の支援内容相談)
平日 9:00～17:00
043-245-5898

接触確認アプリ「COCOA」

陽性者と接触した可能性がわかることで、保健所のサポートを早く受けることができます。



心のケア相談

(不安や不眠、憂うつな気持ちが続いている方)
平日 9:00～17:00
043-204-1582

千葉市役所コールセンター

(各種制度、手続、施設等に関する問い合わせ)
平日 8:30～21:00
(土日祝は17:00まで)
043-245-4894

新型コロナウイルス感染症相談センター

(息苦しさ、強いだるさ、高熱等の症状がある方)
平日 9:00～19:00
土日祝 9:00～17:00
043-238-9966

平日 17:00～21:00
土日祝 13:00～17:00
0570-010-400
※SNS(LINE)による相談



市政に関するご意見、ご要望など、みなさまの声をお聞かせください。

千葉市議会議員 **酒井 伸二** | 〒260-0822 千葉市中央区蘇我3-5-14
Tel. **090-2910-3925**

ホームページは「酒井伸二」で検索ください! <http://www.facebook.com/sakai.cc> e-mail:sakai_chiba@ko-mail.jp





令和3年 第1回 定例会 における 一般質問より

去る3月1日、千葉市議会「令和3年 第1回定例会」において、一般質問を行いました。以下のサイトにて、録画放映がご覧になれます。ぜひご覧下さい!

■アドレスは以下の通り。
www.chiba-city.stream.jfit.co.jp

議員名「酒井伸二」で検索ください!

◆コロナ禍の諸施策を万全に

◆「支え合い」の強化を

本市生活自立・仕事相談センターに寄せられる相談件数は、昨年度比で倍増。また、夜間休日における心のケア相談では、月200件を超す相談が寄せられ約73%が女性からのもの。社会的孤立が深刻化する中、各相談機関の一層の連携、各種情報の周知徹底、高齢者のフレイル（虚弱）予防の強化を求めました。

◆リモート相談の拡充を

新年度は、(実施を求めてきた)発達障害者支援センターにおいてリモート相談が取り入れられます。子育て層のみならず、ひきこもりや心のケアなどに対する多様な相談手法として、リモート相談の更なる拡充を求めました。



議案研究の様子

◆経営相談の体制強化を

飲食店を中心に、中小事業者の経済的ダメージは深刻です。融資や補助金、各種支援金などが的確に行き渡ることはもとより、ビジネスのあり方そのものが変化する中で、経営相談にも応じていける体制強化を求めました。

◆家庭での学習保障の充実を

家族が濃厚接触者となった場合など、自宅待機時の(一人一台パソコンを活用した)リモート授業の推進や、パソコンを使用した家庭学習時の通信費用の負担軽減を求めました。

保健福祉局、総務局、こども未来局、経済農政局、教育委員会と、各担当部局よりそれぞれ前向きな答弁がありました。感染症そのものへの対策はもとより、市役所全体が一体となって、コロナ禍の市民の皆さまの生活をしっかりと支えられるよう、今一重の丁寧な取り組みを要望致しました。

◆市制100周年と平和啓発事業について



本年は市制施行100周年。都市としてのあゆみを振り返り、更なる発展、行動へとつなげていく大切な機会です。

その100周年を、私たちは世界的な気候危機とコロナ禍の中で迎えました。そして「世界的な気候危機を共有し、連携・協力しながら立ち向かう」との主旨で今般、「千葉市気候危機行動宣言」を発出したことは評価

に値します。同様に、人権や人道、環境、経済、食料、健康など多くの分野に影響を及ぼす、もう一つの世界的な課題が核兵器の問題です。偶然にも100周年の本年、1月に「核兵器禁止条約」が発行となりました。「核兵器なき世界」に向けた大きな一歩を気候危機問題と同様に宣揚すること、及び平和啓発事業へ活用するよう求めました。

当局からは「100周年の中での条約発効は大いに意義があり、平和啓発事業において取り上げる」「市民の皆様、戦争の悲惨さと平和の尊さをより身近なものとして実感して頂けるよう、(改定予定の)平和啓発パンフレットへの掲載を検討していく」との答弁がありました。

ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン)のフィン事務局長は「私たちはコロナウイルスや気候変動と戦っていますが、核兵器はこれらの脅威との闘いには何の役にも立ちません」と。今こそ銘記したいメッセージです。

◆地域の交通課題にこたえる

◆バス停へのベンチ設置促進を

4年前の提案以降、一昨年に「歩行空間のベンチ設置計画」が策定され、駅前広場71カ所、生活関連道路18基が年度末までに完了見込みであり、新年度には更に60基が新設される予定です。一方で、駅前広場以外のバス停へのベンチ設置が遅れており、促進を求めました。

◆買物支援サービスの拡大を

本市が設定した公共交通サービス区分A~Dの内、区分Bは鉄道駅からは800m以上離れ、かつバス停まで10分以上要するエリア、区分Cはバス停まで20分以上要するエリアとなっております。両エリアの人口は約20万人、人口割合約21%。(区分Dは同圏域外で人口約6,700人、約0.7%)高齢化が進み「公共交通が不便なため免許返納を躊躇している」との声が多く、区分B・Cエリアへの交通支援策こそ急務との立場で質問。例えば買物支援サービス(無料)に取り組む社会福祉法人は、ここ数年で市内15法人まで拡大。事業スキームを分析した上で他地域への展開を図るなど、より積極的な活用を求めました。



川戸地区で行われている買物支援サービス

当局からは、「ベンチ整備については、新年度にバス事業者への支援制度を開始し設置促進に努める」「送迎サービス等の活用については、関係部局間と連携・協力しながら、地域に応じた最適な取り組みについて検討していく」との答弁がありました。

◆東京オリンピック・パラリンピック～レガシーの継承を



強化指定選手との交流会(於:千葉ポートアリーナ)

東京招致の決定直後から、様々な施策提案をしてきました。平成25年、世界有数の競技用車いすメーカーの所在都市でもあることから、車いすバスケットボールのナショナルトレーニングセンター(NTC)誘致を提案。平成28年、ポートアリーナが同競技で初のNTCに指定されました。オリンピック・パラリンピック教育は提案の2年後、平成29年に全市立学校が同教育実施校として認証を取得。30年度からは、全校の体育の授業にパラスポーツが取り入れられるようになりました。その他、(今年はコロナで中止になったものの)ポッチャの市民大会も企画されるようになりました。オリンピックが開催されなくとも、これまでの様々な取り組みは間違い

なく本市の未来につながるレガシー(遺産)となりました。

そこで、オリンピック・パラリンピック後のパラスポーツの振興、オリンピック・パラリンピック教育の取り組みについて問いました。

当局からは、「体験会の拡充に取り組むとともに、新年度にはパラスポーツ教室を開催していく」「大会後は市民局においてスポーツ施策と一元的な取り組みをしていく」「オリンピック・パラリンピック教育については年間指導計画に位置付け、レガシーとして発展的に継続していく」との答弁がありました。

昨年訪問した川崎市では、平成27年に障がい者スポーツ協会を設立。翌年から「かわさきパラムーブメント」を推進。毎月障がい者スポーツデーを設定した上で、各区のスポーツセンターで教室が開催されております。担当者は、協会設立以降は効率よく活動を行うことにより、予算や事業も増え、障がい者スポーツに関わる裾野を広げることができているとのこと。こうした協会の設立など、先端の動きに追いつき追い越していくことも視野に、一層の取り組みの充実を要望しました。